

平成26年度 行政評価 施策カルテ

施策名	1 効果的で効率的な行政経営システムの確立
-----	-----------------------

施策主管課	行政改革課	総合計画記載頁	161ページ
-------	-------	---------	--------

1 施策の位置付け

政策の柱	VI 持続的発展が可能な都市の自治基盤を確立するために	政策名 (基本施策名)	24 行政経営基盤を強化する	政策の達成目標 (基本施策目標)	本市の行政運営を効果的・効率的に行うことで、行政経営基盤が強化されています。
------	-----------------------------	----------------	----------------	---------------------	--

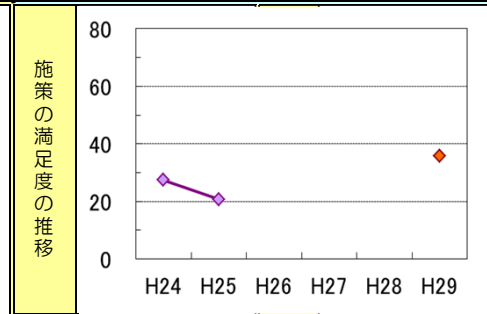
2 施策の取組状況

施策目標	限りある経営資源を適切に配分することにより、最少の経費で最大の効果が発揮できるような行政経営を行っています。
------	--

① 施策指標	指標名(単位)		H24	H25	H26	H27	H28	H29 (目標年)	評価	② 市民意識調査結果	指標名(単位)		H24 (現状値)	H25	H26	H27	H28	H29	評価			
	指標1	行政改革推進プランの進捗状況(全取組中、順調に進められている取組の割合)(%)		単年度目標値	95%以上	95%以上	95%以上	95%以上	95%以上		95%以上	A	指標3	施策の満足度(%)		調査結果	27.4%	20.8%				C
現状値		98.8%	実績値	100.0%	98.0%				目標値(H29)	35.9%	前年度からの増減				-6.6%							
目標値(H29)		95%以上を維持	単年度の達成度	100.0%	100.0%					③ 主要な構成事業の進捗状況 (主要な構成事業の個別の進捗状況は、「3 施策を構成する事業の状況」を参照)										B		
① 施策指標	指標1	現状値		実績値					A	【参考】中核市等との水準比較	財政力指数		中核市平均	0.80	0.77					B		
		目標値(H29)		単年度の達成度								実績値	1.01	0.96								
	指標2	現状値		実績値							B	中核市での本市の順位	3位/41市中	5位/41市中								
		目標値(H29)		単年度の達成度									中核市平均									
	指標3	現状値		実績値							B	中核市での本市の順位										
		目標値(H29)		単年度の達成度									実績値									

※『①施策指標』の単年度の達成度の計算について

★ 増進型の指標(目標値が基準値より増加することが望ましいもの)	$\frac{\text{実績値}}{\text{目標値}} \times 100 (\%)$
★ 減進型の指標(目標値が基準値より減少することが望ましいもの)	$\frac{\text{目標値}}{\text{実績値}} \times 100 (\%)$



※評価の考え方

① 施策指標	A: 達成度90%超 [33点]	B: 達成度70%~90% [25点]	C: 達成度70%未満 [15点]
② 市民意識調査結果(満足度)	A: 前年度より向上 (+5pt超) [33点]	B: 前年度同水準 (±5pt以内) [25点]	C: 前年度より低下 (-5pt超) [15点]
③ 主要な構成事業の進捗状況	A: 計画以上 (主要な構成事業の2割超が計画以上) [33点]	B: 計画どおり (主要な構成事業の8割以上が計画どおり) [25点]	C: 計画より遅れ (主要な構成事業の2割超が計画より遅れ) [15点]
総合評価	順調: (A評価が2つ以上 (C評価がある場合を除く。)) [90点以上]	概ね順調: (主にB評価が2つ以上) [65点以上90点未満]	やや遅れている: (C評価が2つ以上) [65点未満]

取組内容と成果・成果の要因、進捗の状況

施策を取り巻く環境等
 ・少子・高齢化の進行に伴う社会保障関係経費の増加や老朽化に伴う公共施設の維持修繕費の増加など、今後、財政需要の増加が見込まれる。
 ・地方分権改革の進展に伴い、地方の役割や権限が拡大しており、自主性・自立性の高い行政運営が求められている。

施策指標
 「行政改革推進プラン」に計上する99取組について、おおむね予定どおりに進捗しており、プランの着実な推進により、平成25年度においては約15億円の経費削減・増収を図るとともに、これらの見直しによって得られた成果を、より優先度・重点度の高い事業に再配分している。

市民満足度

施策を構成する事業が概ね計画通りに推移しているにもかかわらず、市民満足度が前年に比べ低下しているのは、各種事業の成果が市民に十分伝わっていない可能性があると考えられることから、市民に対してより丁寧な説明やより関心を高めるためのアピール手法を検討する必要がある。

総合評価

73点

概ね順調

3 施策を構成する事業の状況

※凡例 ○:「総合計画の戦略プロジェクト・主要事業」対象, ★:「③ 主要な構成事業の進捗状況」対象(最大5事業選択)

No.	事業名	戦略P・主要事業※	事業が属する総合計画の構成事業名	事業内容		事業の進捗状況	H25事業費(千円)	開始年度	日本一施策事業	施策目標を達成するための取組方針
				対象者・物(誰・何に)	取組(何を)					
1	行政改革の推進	○★	・多様な手法を活用した事務事業の再構築 ・民間活力の積極的な活用	市民, 庁内各課	・行政改革推進プランの進行管理, 公表 ・行政改革推進プランの改定(毎年度)	計画どおり	2,589	H7		本年度で大綱の計画期間が終了することから, 第4次行政改革における取組の検証結果や社会経済環境等の変化を踏まえ, 新たな「行政改革大綱」と同大綱に基づく「行動計画」を策定する。
2	統計調査員確保対策事業		多様な手法を活用した事務事業の再構築	市民, 登録統計調査員	統計調査員の量・質の確保・向上	計画どおり	417	H12		登録調査員数は総務省で指定する登録基準数(経済センサスの調査区数の2分の1, 宇都宮市は346人)を大きく上回るが, 資質の向上と登録継続が課題となっている。そのため, 調査の現場で役立つテーマを選定した研修や, 顕著な功績を残した調査員に対する市長表彰等を実施するなど, 統計調査員の資質とモチベーションの維持・向上を図り, 登録調査員を確保するとともに, 大規模な周期統計調査に対応できる体制を構築していく。
3	統計調査解析事務		多様な手法を活用した事務事業の再構築	庁内外	情報の収集・分析による各種統計データを提供, 分析手法の構築	計画どおり	343	H16		公的機関や民間調査機関の統計調査で, 市町村単位の結果が公表されており, それらを活用した上で本市としての推計・分析を行うことが求められている。各種統計データを収集するとともに, 国等で実施される実務研修への参加や, 先進都市の事例研究などにより, 市の施策や評価に活用可能な分析手法を習得し, 庁内外へ発信していく。
4	行政評価システムの推進	○★	行政評価システムの推進	市民	・評価の実施, 公表	計画どおり	0	H13		総合計画に掲げる長期的な目標の達成度を包括的・体系的に評価し, 総合計画の進捗状況を的確に把握するため, 各施策の進行管理に重点を置くとともに, 平成26年度から, 「市民満足度の推移」や「主要な構成事業の進捗状況」を指標に加えた評価実施により評価結果の精度向上を図るほか, 「日本一施策事業」との連携等によって, 総合計画実施計画等へのつながりを強化していく。
5	地方分権の推進	★	・分権型社会にふさわしい自治制度の確立 ・自治基本条例の運用	市民, 国・県, 庁内各課	・地方分権改革に係る一括法, 県特例条例等を活用した本市にふさわしいまちづくりの推進 ・中核市市長会を通じた研究, 国への提言・要望 ・市民等への自治基本条例の周知・啓発	計画どおり	1,221	H7		・本市にふさわしいまちづくりを効果的・効率的に実現するため, 国の地方分権改革に係る一括法や県の特例条例に適切に対応するとともに, 中核市長会の活動を通じて, 住民に身近な基礎自治体に必要な事務権限と税財源が移譲されるように国に働きかけを行う。 ・引き続き, 自治基本条例の適切な運用を図るとともに, 出前講座(自治基本条例サポーターとの協働によるワークショップの開催等)の実施や, イベント等におけるパンフレットの配布など, さまざまな機会をとらえて市民の理解を深め, 広くその定着を図っていく。
6	総合評価落札方式の運用		民間活力の積極的な活用	市が発注する建設工事の入札契約	総合評価落札方式による入札契約の試行を実施する。	計画どおり	184	H18		・工品質の確保や適正な施工, 建設業者の育成と技術力の向上に効果が認められるため, 実施効果の高い工事内容の案件を対象として抽出し, 総合評価落札方式を引き続き試行実施する。 ・実施効果の高い工事は, 設計金額, 工事内容, 施工条件などを勘案して決定する。また, より適正な評価と公正で円滑な運用を図るため, 評価項目や運用方法を改善して実施する。
7	市政研究センターの運営	★	分権型社会にふさわしい自治制度の確立	市職員・市民	・政策形成能力の向上のため, 調査研究, 人材育成, 情報収集・発信をおこなう。	計画どおり	2,980	H16	先駆的	複雑・多様化する行政課題の解決に資する政策分析や施策提案の充実のため, 今後とも大学等と連携を図りながら, 課題解決に向けた先駆的・基礎的研究や政策立案を行うとともに, 各部署における調査研究, 立案, 事業化を支援することにより, 本市の政策形成機能を高めていく。
8	宇都宮地区における広域連携の推進		広域的共同・協力事業の推進	・宇都宮市を含む広域圏(宇都宮市, 上三川町, 壬生町)	・宇都宮地区広域連携研究会の運営 ・広域連携に向けた課題の抽出	計画どおり	0	S47		平成24年度に実施した宇都宮地区行政区域境における公共交通連携方策検討の結果をもとに, 平成25年度は各自治体の実情や課題について情報共有を図ったところであり, 今後は連携方策の具体化に向け, 課題に対する検討を進めていく。
9	栃木県央都市圏首長懇談会の運営		広域的共同・協力事業の推進	・栃木県央都市圏の6市4町(宇都宮市, 鹿沼市, 真岡市, さくら市, 下野市, 日光市, 上三川町, 芳賀町, 壬生町, 高根沢町)	・栃木県央都市圏首長懇談会の運営 ・連携事業について検討	計画どおり	0	H4		平成25年度は「広域観光の促進」, 「コンパクトシティ形成に向けた取組」について構成市町の実情把握や先進地の事例調査などを行ったところであり, 引き続き, これらのテーマについて検討を進めるとともに, 構成市町の情報共有に向け, 首長懇談会を開催する。
10	首都圏県都市市長懇話会の運営		都市間の政策的連携の推進	・構成市(横浜市, 水戸市, 甲府市, 前橋市, 宇都宮市, 千葉市, さいたま市)	・懇話会への参加, 研究会の開催 ・調査研究・報告	計画どおり	35	S57		平成25年度は行政事務研究会において「都市の魅力の発見・発信」について, 調査研究を行い, 首都圏県都市市長懇話会への報告書をまとめたところであり, 当該研究成果を本市のまちづくりに活かすため, 関係課と連携した取組を検討していく。 また設定された研究テーマについて, 先進的な取組を実施する構成自治体と積極的に情報交換を行う。

11	宇都宮ブランド戦略の推進	○★	・情報収集・発信拠点の活用促進 ・シティセールスの強化 ・市民参加型事業の推進	市・内外の人、企業等	・「ブランド・メッセージ」をもとにした、情報発信	計画どおり	48,141	H20	独自性	全市的・全庁的・継続的な取組による市民や事業所、市職員への更なる意識啓発や市民を巻き込んだ活動の展開、情報発信力の向上が課題であり、引き続き、「宇都宮ブランド推進協議会」を中心に、アンテナショップ「宮カフェ」や「愉快市民」、「愉快ショップ」など、市民・企業・団体が一体となった取組を積極的に展開するとともに、本市マスコットキャラクター「ミヤリー」を活用したメディアプロモーションによる効果的な情報発信とメディア獲得を進め、宇都宮ブランドを推進していく。
12	条例表彰事務		市民参加型事業の推進	宇都宮市表彰条例による表彰対象者 【市民栄誉賞】 【市政功労表彰】 【うつのみや市民賞】 【市長特別賞】	功績に応じ各表彰等を行う。	計画どおり	565	S29		市民の偉大な行為や功績を称える表彰制度は、市民の市政参加に寄与しており、市政運営において重要な役割を果たしている。今後は、対象者や潜在候補者に関する幅広い情報収集や受賞者の功績の効果的なアピール等の課題解決を図りながら事業を継続していく。
13	総合計画基本計画の推進			市民	・総合計画実施計画の改定（毎年度） ・施策事業の進行管理、公表	計画どおり	8,390	—		第5次総合計画後期基本計画の5年間で重点的に展開する「まちづくり戦略プロジェクト」の着実な推進・具体化に取り組むとともに、本市の持続的な発展に必要な「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成に向けた「拠点形成の促進」や「総合的な交通ネットワークの構築」、「都市力・財政力」の向上に向けた「健康づくり」や「経済の活性化」に重点的に取り組むなど、より一層計画を推進していく。

4 今後の施策の取組方針

今後の方向性	
課題	<p>◆厳しい社会経済環境の中、限られた経営資源で高度化・多様化する行政課題への確に対応し、市民満足の向上につなげるためには、必要性や効果等のより高い施策・事業に資源を優先的、重点的に配分していくことが必要である。</p> <p>◆人口減少や少子・高齢化の一層の進展、公共施設の老朽化・更新時期の集中等の課題を踏まえ、持続可能な財政構造の確立に向けた、施策事業のスクラップアンドビルドの徹底による資源配分の最適化や自主財源の確保を図ることが必要である。</p> <p>◆本市の認知度、信頼度の更なる向上を図るとともに、宇都宮に対する市民の自信・誇りを醸成し、愛着度を高めていくことが必要である。</p>
方向性	<p>〈施策全般〉 ◆厳しい社会経済環境の中、限られた経営資源で高度化・多様化する行政課題や市民ニーズの変化に的確に対応していくため、改定基本計画に掲げる構成事業「多様な手法を活用した事務事業の再構築」や「行政評価システムの推進」、「公有財産マネジメントの推進」等を通じて、施策・事業全体の優先化・重点化を図るとともに、より必要性や効果の高い事業への再構築を推進する。</p> <p>〈主要事業〉 ◆行政改革の推進 プランに計上する取組の着実な推進を図るとともに、本年度で大綱の計画期間が終了することから、第4次行政改革における取組の検証結果や社会経済環境等の変化を踏まえ、新たな「行政改革大綱」と同大綱に基づく「行動計画」を策定する。</p> <p>◆行政評価システムの推進 総合計画に掲げる長期的な目標の達成度を包括的・体系的に評価し、総合計画の進捗状況を的確に把握するため、各施策の進行管理に重点を置くとともに、平成26年度から、「市民満足度の推移」や「主要な構成事業の進捗状況」を指標に加えた評価実施により評価結果の精度向上を図るほか、「日本一施策事業」との連携等によって、総合計画実施計画等へのつながりを強化していく。</p> <p>◆宇都宮ブランド戦略の推進 全市的・全庁的・継続的な取組による市民や事業所等への更なる意識啓発、市民を巻き込んだ活動の展開や情報発信力の向上が課題であり、引き続き、「宇都宮ブランド推進協議会」を中心として市民・企業・団体が一体となった取組を積極的に展開するとともに、本市マスコットキャラクター「ミヤリー」や地元プロスポーツチームを活用したシティプロモーションによる効果的な情報発信とメディア獲得を進め、宇都宮ブランドを推進していく。</p>